

祝 辞

令和3年度第61回九州地区病弱虚弱教育研究連盟研究協議会佐賀大会の開催に当たり、お祝いの言葉を申し上げます。

また、本大会主催者をはじめ御関係の皆様には、日頃から病弱虚弱教育の充実と発展に御尽力くださっていることに心から敬意を表しますとともに、深く感謝申し上げます。

さて、令和3年1月に、「新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議」の報告がなされ、インクルーシブ教育システムの構築や連続性のある多様な学びの場の一層の充実に向けて議論が深められたところです。このような中、本県で九州地区大会が開催されることを、たいへん意義深く感じております。

特別支援教育においては、「専門性の向上」と「連携」が重要とされており、とりわけ病弱虚弱教育においては、教育、医療、家庭の連携が必要不可欠であると言われています。昨年度、佐賀県立中原特別支援学校にて全国の病弱特別支援学校が参加するロボットプログラミング選手権の予選大会を九州場所として開催したところ、九州各県から応募があり、当日はビデオ会議システムにより参加して熱戦を繰り広げてくれました。このような児童生徒の自主的な学びを支え、障害のある児童生徒の自立と社会参加に導いていくためには、支援に関わる者の更なる「専門性の向上」と、教育、医療、家庭のみならず関係機関、地域の人々との関りと連携を意識した教育が求められていくものと考えております。

今回の佐賀大会は、新型コロナウイルス感染症の感染予防対策のため、オンラインによる開催となりました。九州各県の皆様には、佐賀にお越しいただけないのは残念ではありますが、講師の貴重な講演や各分科会での実践発表等を共有しながら、場所は離れた中にあっても議論を深め合うことにより、各県での今後の教育実践に役立てていただき、支援の連携づくりにつなげていただけることを期待しています。

最後になりましたが、九州地区病弱虚弱教育研究連盟のますますの御発展と、関係の皆様の御健勝と御活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

令和3年 8月吉日

佐賀県教育委員会
教育長 落合 裕二